

# 川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 41号 平成11年8月31日 編集・発行 川崎市立日本民家園



間もなく発足5年を迎える「炉端の会」は、人の気配のない空き家の状態から、「民家に人のぬくもりを」をモットーに清掃、くん煙・ガイドにと、活発な活動を展開し、今や日本民家園にとって不可欠の存在になりました。

本号では、炉端の会と共に年中行事の展示や所蔵資料の整理に活躍していただいております2つのボランティアグループの代表者に、その活躍ぶりを紹介させていただきます。

# 「炉端の会」の活動について

今村 英男

## 1. 「炉端の会」活動組織の変遷

まず、会の発足より今日に至る経過を簡単に展望しておこう。

### (1) 第1期（平成5年10月～平成6年8月）

川崎市生涯学習事業団が主催する「中高年のためのかわさき市民アカデミー」公開講座「日本人の生活文化史コース」が平成5年5月から7月まで12回にわたって当園で開かれ、この講座終了時に受講者へ民家園から民家公開のボランティア活動の話があり12名が参加、平成5年10月から毎週金・土・日の3日間、2軒の古民家を対象として活動に入った。

### (2) 第2期（平成6年9月～平成7年2月）

前項のボランティア活動による古民家の公開に、見学者から「親しみがもてる」「囲炉裏ばたが懐かしい」など好感をもって迎えられたことから、当園では年間連日1棟の床上公開を目標として「ボランティア講座」（平成6年8月の各金曜日4回）を開設し、応募者137名から抽選により50名（当初の11名を含む）が受講、9月1日から正式に「炉端の会」として活動を開始した。

なお曜日別の対応は、参加者の活動希望曜日により編成した火～金曜（月曜日は休園日）の4班と土・日1班の計5班（各班平均10名）の編成とした。

### (3) 第3期（平成7年3月～平成10年3月）

前(2)の土曜と日曜の担当土・日班は平日班からの応援で運営した結果、各班の交流が計られる利点がある反面、毎月平日班からの応援者の調整に時間がかかり、恒常的にこの体制によることは無理があるため、当初の選外となった人の中から土曜または日曜の活動可能者17名を選出、これにより2班を増やし計7班（平日班4班・土曜、日曜、土・日曜の3班計7班）の編成で平成7年5月から新体制でスタート。

ちなみに平成9年10月末日現在の会員数は53名で、このうち52名が川崎市居住、1名が小金井市の居住である。

性別では、男性が19名（35.8%）女性34名（64.2%）また年齢構成は表1のように、60代と50代が80%を占め、そのうち50代は全て女性となっており現在のボランティア参加の実態（定年・育児からの開放など）を反映しているものと思われる。

### (4) 第4期（平成10年4月～現在）

会員の活動は円滑に行われ、くん煙の効果は著しく、入園者からも清掃がゆき届いてたいへんきれいであり、また会員が活動中の民家では室内の見学が可能であることも好評であった。

そこで民家園ではさらに1日2棟のくん煙を実施することを検討し、平成10年2月から

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	人員計	構成(%)
男性	0	1	1	0	16	1	19	35.8
女性	2	0	4	13	14	1	34	64.2
人員計	2	1	5	13	30	2	53	100
構成(%)	3.8	1.9	9.4	24.5	56.6	3.8	100	

表1 年齢構成表（平成9年12月1日現在）

3月の間、第2回のボランティア養成講座を開催、その受講者51名により、同4月1日から第1グループ（旧会員）、第2グループ（新会員）による2棟の床上公開が実施されることとなった。

さて、平成6年9月、旧会員による正式発足より4年余りが経過し、この間新旧会員のなかにはポツポツ転居や病気などによる休務者や退会者があり、曜日によっては活動者が少数となって負担がかかり、その運営に多少の困難が感じられるようになった。民家園としては、①とにかく炉端の会の会員が、無理なく、楽しく長期的に安定した活動が行われること。②1日2棟のくん煙と公開は将来にわたり継続していきたい。との希望があり、そこで1G、2Gの不足するところを補い、かつ、独自の活動が可能な体制を前提として本年6月より第3回のボランティア養成講座の実施を決定、8月6日の講座終了日以降は新会員を加した3つのグループによる活動が行われることとなる。

## 2. ボランティア活動の概要

各班の活動は9時50分に集合し次のような活動を行っている。

(1) 床上公開対象の古民家内外の清掃、囲炉裏の火焚き、見学者に対する家屋や民具の解説、囲炉裏を囲んで見学者との団欒など。

なお、この活動では火の管理と見学者の安全確保に細心の気配りをしている。

(2) 団体ガイドの実施（平日のみ）

(3) 川崎市立全小学校の3年生を対象とするカリキュラムにもとづく見学時の手伝い。

(4) 民家園の企画する行事に対する協力。

これらの活動のなかでも(1)の床上公開がメインであり、見学者の中年以上の人は「懐かしい匂い」と言いながら戸口をくぐる人が多く、また家屋や民具の解説時や囲炉裏を囲んでご自分の体験を楽しそうに語られる方、昔の話を熱心に聞き入る若い人、「これが本当の火」と聞き「火吹き竹」や「火箸」の使いたがる子供たちで、むかし囲炉裏端で繰り広げられた団欒の場が現代に再現され、「ど

うもありがとう」と次へ向かわれる人々との暖かい心の交流は、ボランティア活動の最大の喜びである。

しかし5月の「ゴールデンウィーク」や11月の「文化の日」前後には1000名以上、春・秋の行楽期の日・祭日には500～600名の見学者で賑わい、その対応に追われ目まぐるしい1日となる事もある。

一方、屋外博物館であるため厳しい「寒さ」「暑さ」や「雨」「雪」さらには「緑」「紅葉」など自然の中で過ごすとき、つらいこともあるがギスギスした世間から開放され、ほっとした気分を味わえる場でもある。

また(4)の園の企画する行事（講演会、農村歌舞伎など）に協力している。

とくに平成9年は開園30周年にあたり記念行事が目白押しで、会員100名以上が協力し円滑運営に大きく貢献した。

## 3. 例会ならびに学習

ボランティア活動の円滑化には、運営に関する情報の周知、会員相互の良好なコミュニケーションと関連知識の学習が不可欠であり、これに対し次のように対応している。

### (1) 例会

毎月第三火曜日（2G）・第三金曜日（1G）を例会日とし翌月の運営に関する事や連絡事項の周知、検討事項の提案と協議などを通じコミュニケーションの向上に努めている。

### (2) 学習

例会日に園の学芸員による古民家、江戸時代の宿場、庶民の生活や信仰についての座学、ならびに市内外の関連箇所の見学（日帰り）を実施している。

また園主催の学習講座への自主参加、有志による年1回の見学研修（宿泊）なども実施している。

## 4. おわりに

すでに述べたように古民家の囲炉裏に「火」を焚くことで、その家を生き活きと現代に息づかせ、見学者の身近な場所として我々ボランティアと語りあえる雰囲気は、園が古民家

や民具を展示している博物館に止まらず、見学者との「心の交流」がある「サービス」の提供をボランティア活動に期待していたが、それが実現しつつあり今後さらにその定着化に努めたいと思う。

また当会の皆さんの中に自分はボランティア活動をしているという肩肘張ったひとはひとりも見当たらず、和気あいあいと楽しんで活動しているのは、古民家のもつ不思議な魅

力と、さらに民家園ならびに会員相互のコミュニケーションの良さが基盤となっているが、これは担当職員の配慮の賜である。

ここ民家園には、当「炉端の会」のほか「多摩文化財愛護ボランティア」「川崎文化財友の会」がボランティア活動をしており、今後これら団体とともに見学者に喜ばれる活動の充実と、当会が末永く発展するための良き伝統の構築に努めたいと思っている。

## 年中行事について

多摩文化財ボランティア 荻野 幸子



私たちの日常生活の営みは春夏秋冬、季節の訪れと密接な関係にあります。

季節が廻りくるごとに毎年一定の日に、慣例的に繰返し行われている行事を年中行事といいます。個々の行事が何時、何所で、どの様に発生し伝承させてきたか今日では正確に知ることは困難です。ただ私たちの祖先が事ある毎に八百万の神々に祈り、そして願いを行事として定着させたのだと思われます。しかし現在私たちの周辺では、

この大切な行事が日常生活の中では急速に忘れられていくような淋しさを感じています。民家園の北村家と、原家で文化財ボランティアの私たちがさせて頂いている年中行事の展示は、多くの方々に是非、見て頂きたい。そしてそれは私たちの遠い祖先から、綿々と伝えられ、守られてきた大切な財産を、次世代に引継がれるようみんなで努力していくことが、今一番大切だと考えています。

# 川崎文化財友の会

岩崎 紀美子



当時としては、めずらしい文化財ボランティア養成講座を1年間受講し、終了後自主グループをつくり、川崎の文化財ボランティア

として20年間種々な活動をしてまいりました。公開見学会の時には参加費を徴収し、展示会の手伝いで道標の拓本を取り、調査カード作成の為に、市中にある石造物をさがし、写真をとり、寸法をはかり、調査カードをまとめて庚申塔、道標の資料集を出したこともありました。地名研究所の依頼で、各村の聞き取りに歩き民家園に於いては、古文書や民俗資料の整理、衣類の補修を行い、市指定文化財現地特別公開事業の手伝いで、寺社で解説を行っています。文化財ボランティアとして活動する為には、歴史をはじめ、民俗学、宗教史、仏像、絵画、古建築など、四方八方に学習は広がります。メンバーの変動は、すこしづつありますが、一人一人が意欲を持って活動を続けています。

## 長野県八千穂村佐々木家を訪問して

日本民家園学芸員 栗田 一生

民家園にある旧佐々木家住宅（国指定重要文化財）の寄贈者佐々木嘉幸氏より、敷地内の五輪塔を寄贈したいとの申し出があり、平成11年6月4日に長野県南佐久郡八千穂村の佐々木家を訪れた。中央道須玉ICを降りて国道141号線（通称佐久甲州街道）を北上すること約1時間半、ようやく八千穂村に入った。国道141号線を左折し緩やかな坂道を上ると、その先に樹齢数百年の松の巨木が出迎えてくれた。そのすぐ前が佐々木家であった。現地は千曲川左岸の傾斜地に立地するため、段々畑のように階段状に住宅や畑が作られていた。佐々木家の入口に立つと、右手の古めいた土蔵がまず目に入る。白壁のまぶしい凜とした雰囲気漂う。その左手には手入れの行き届いた庭園があり、今回寄贈を受けた五輪塔もここにあった。そして正面には佐々木



家が、その堂々たる威風を横たえていた。思わず民家園にある旧佐々木家の姿を重ねてしまう。「1年に1・2回は五輪に線香をあげる」と語る佐々木氏の朴厚さが印象的であった。

平成17年度

# 日本民家園まつり

10月～11月

10月10日(日)

13:30～14:00 民俗芸能公演  
**箱根宮城野湯立獅子舞** (国選択無形民俗文化財・神奈川県指定無形民俗文化財)  
宮城野獅子舞保存会  
作田家 無料

10月11日(月・休)

10:00～  
**お茶席の会**  
協力 橘樹青年部  
佐々木家 一服300円(先着100名)

10月17日(日)

10:00～15:00 実演会  
**丸太から柱ができるまで**  
体験  
**こども大工入門**  
協力 神奈川土建川崎多摩支部  
作田家 無料

10月24日(日)

10:00～  
**お茶席の会**  
協力 たちばな会  
佐々木家 一服300円(先着100名)

11月3日(水・祝) 無料開園日

13:00～15:00 舞台公演  
**和太鼓の響**  
協力 川崎太鼓仲間 響/中野島太鼓クラブ 風/中野島親子太鼓 元気組  
船越の舞台 無料

11月6日(土)・7日(日)

**いけばな展示**  
協力 石倉社中  
園内古民家 無料  
(実演会 7日 13:00～)

11月20日(土)

13:30～14:00 ミニコンサート  
**サクソフォンの調べ 日本の歌**  
出演 サクソフォンカルテットさくら  
作田家 無料

11月21日(日)

13:30～14:00  
**古民家で聞く昔話**  
語り 上原千夏  
工藤家 無料



箱根宮城野湯立獅子舞



お茶席の会

その他にも10月～11月は太田家で民具作品展示会(協力 民具製作技術保存会)、  
11月2・3日は佐々木家で民具製作実演会(協力 伝統技術技法を保存継承する会)もあります

※各催し物には入園料が必要になります。(11月3日は入園料も無料です。)